

2007年度 後期公開講座「共生塾」が終了！

去る2月2日(土)～3月8日(土)、5回にわたり、「子ども虐待の理解と支援」と題して、後期共生塾を開講しました。

前期共生塾「日本における福祉のまちづくりモデルの教訓と課題」に引き続き、後期では“子ども虐待”をテーマに、私たちの周りにおける虐待について理解を深め、地域で支援するための方法を共に考えていきました。今回の講座であらためて見えてきた課題を、福祉フォーラムの今後の活動の中で継続的に取り組んでいきたいと思えます。

第1回 2月2日(土) 「社会現象としての虐待」

山田 容 (龍谷大学社会学部 准教授)
津島 昌弘 (龍谷大学社会学部 准教授)

山田准教授から日本における虐待対応の仕組みと動向についてわかりやすく解説。児童虐待防止法の制定や虐待に対する社会的認識の高まりも背景にあり、児童相談所における虐待に関する相談件数は増加しているが、これらに対応できる体制はまだ不十分である。虐待問題の増加は、子どもは親に任せておけば安心・安全であるという従来の価値観が揺らいでいることを示すものでもあり、保護者の支援も重要な課題であるということもあわせて理解できた。

津島准教授は、児童虐待に関する相談件数や犯罪統計などのデータを読み解きながら、虐待は本当に増加しているのかという問いを受講者に投げかけた。と同時に、全殺人における加害者と被害者との関係を見ると家族内が半数近くを占め、ここ数十年、その割合はほぼ一定していることをデータによって示した。また、虐待は「こころ」の問題としてのみ見るのではなく、経済的困難などの社会経済的背景との相関に目を向ける必要があることを指摘された。



第2回 2月2日(土) 「医療現場から見た子ども虐待」

岡田 隆介 氏 (広島市こども療育センター 心療部長)



岡田氏は、豊かな臨床経験に基づきながら虐待を受けた子どもの臨床像、心理臨床の現実から浮かぶ家族の状況、子育ての孤立と混乱の実態について具体的に述べられた。中でも、発達段階における社会性の乏しさの形成過程やそのことと社会環境的問題との関わり、不登校やひきこもりの問題にも共通する話を受講者は深くうなずいた。また、受講者からは臨床現場における面接技法にも関心が寄せられ、「面接・援助についていっぱいヒントをもらった」「日頃の相談に生かしていきたい」「もっと岡田先生のお話を聞きたい」などの感想が寄せられた。

第3回 2月9日(土) 「虐待対応における法的アプローチ」

安保 千秋 氏 (弁護士)

安保氏は、京都弁護士会子どもの権利委員会委員長などを歴任し、子どもの問題に長年取り組んでいる。今回は、法律の専門家の立場から子ども虐待防止へのアプローチを語った。

わが国では、2000年に「児童虐待防止法」ができ、今日まで既に2度の改正が行なわれている。この法律の内容について、安保氏は法律制定までの流れ、改正のポイントと残された問題点、そして将来の課題を分かりやすく解説。問題点としては、虐待を受けている子どもを保護する際の手続きについて司法が関与する場合が一部である点、および虐待を繰り返す親の親権を全部剥奪するのではなく一部剥奪または一時停止するといった対応がなされていない点が挙げられた。また、保護後の子どもおよび親のケアの問題も積み残されている。しかし、これまでの法改正は、虐待防止に少しずつでも着実に応えてきている。今後もこれらの問題が検討され、司法の関与、子どもおよび親のケアも徐々に整っていくだろう、と将来への希望も語った。



第4回 2月23日(土) 「児童虐待対策の動向と支援の方向性」

川崎 二三彦 氏 (子どもの虹情報研修センター 研究部長)

川崎氏は、心理判定員として、京都の児童相談所で長年勤められた後、昨年から神奈川県にある子どもの虹情報研修センターの研究部長として、全国の児童福祉関係者を対象とした研修に携わっている。

今回は、虐待による死亡事例を紹介して、悲惨な実態を提示。中でも、児童施設から親元に引き取られた子どもが間もなく殺されたという資料からは、子ども虐待の抱える課題の深さを改めて考えさせられた。

その後は、今後の虐待対策について話を移し、児童虐待防止法と児童福祉法の改正、保護者に対する援助ガイドライン、要保護児童対策地域協議会の設置意義、また、社会的養護専門委員会の動向を紹介。その上で、今後の課題として、妊娠期からの支援、精神疾患を持つ母親への支援、母子家庭への支援、地域での支援について話題提供された。

受講者からは、「事例や児童相談所の具体的な話が聞けてよかった」などの感想をいただいた。と同時に、今後の方向性や対応策についての関心の高さも示され、福祉フォーラムの課題として受けとめた。



第5回 3月8日(土)

I部 講演「虐待対応における支援と連携」

山田 容 (龍谷大学社会学部 准教授)

II部 シンポジウム「子ども虐待～地域で支えるために」

シンポジスト:

松村 睦子 氏 (NPO法人子ども虐待防止ネットワーク・しが 事務局次長)

幸重 忠孝 氏 (滋賀文化短期大学人間福祉学科 講師)

周防美智子 氏 (大津市子ども家庭相談室 家庭相談員)

コーディネーター:

山邊 朗子 (龍谷大学社会学部 教授)

コメンテーター:

山田 容 (龍谷大学社会学部 准教授)



第I部では、市町村と児童相談所、その他の様々な機関との連携の必要性、難しさや課題について、また、地域を基盤としたネットワーク、特に要保護児童対策地域協議会等の役割等について解説。

第II部のシンポジウムでは、地域において、特に滋賀県で活動されている3人のシンポジストに、現場での状況や活動(実践)のあり方、また関係機関や関係者の連携のあり方などについて発題していただいた。フロアからの質問にも応えながら、地域社会の同じ市民として相手を認めつつ支える支援の重要性、行政などとの協働の大切さ、また、領域や価値観の違う専門職同士の連携の困難さとその克服の方向性、さらに虐待のある家族への地域でのきめ細かな支援、柔軟な考え方による対応と予防の重要性、地域での実効的な連携のあり方などについて議論。大変意義深く、時間が足らなく感じられた。

お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局 (REC滋賀)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

TEL: 077-543-7744 FAX: 077-543-7771

E-mail: r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp

ホームページ: <http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/>



電車



バス

JR琵琶湖線「瀬田」駅下車
帝産バス「龍谷大学」行き(約8分)



お車

名神高速「瀬田西IC」(大阪方面から)
「瀬田東IC」(名古屋方面から)より
文化ゾーン方向へ車で約5分 【駐車場有】

